

西中だより

平成27年度 No.9
平成27年 7月 9日
須賀川市立西袋中学校
発行責任者 鶴巻 弘士

校内陸上大会で見た西中生の力

○6月26日(金)に曇り天気の下、校内陸上大会が開催されました。梅雨に入ったばかりで、少し蒸し暑さも感じましたが、時々吹く風が気持ちよく感じる天候でした。初めて経験した私は、本大会が“限りなく陸上競技大会”に近いもので、そのレベルの高さを観て、感動を覚えました。<写真は大会の様子>



【主な結果発表】(順位、名前、記録、各3位まで)※「敬称略」— 残りは、次の10号でお知らせします。

- ・女子100m: ①鈴木 里菜 14秒49、②芳賀天南 14秒76、③佐藤成良 15秒28
- ・男子100m: ①二瓶 雄太 12秒43 (大会新)、②安田颯太 12秒61 (大会新)、③倉田健太郎 14秒06
- ・女子200m: ①西山 夢花 32秒06、②二瓶莉瑚 32秒41、③佐藤弘菜 33秒05
- ・男子200m: ①戸田 健斗 26秒53、②根本怜於 28秒20、③星野真貫 29秒19
- ・女子400m: ①市川ももか 1分12秒62 (大会新)、②根本綾乃 1分15秒98、③星舞由璃 1分19秒47
- ・男子400m: ①浦山 空也 1分01秒64、②渡邊優翔 1分03秒18、③伊藤光希 1分03秒90

◆◆◆ 期末テスト終わる ◆◆◆

- 本校では、テストの2週間前にテスト範囲が生徒に示されます。その後、各学年で学習委員自作の「予想問題」が作成され、印刷された冊子が一人一人に配付されます。そこには、わたしがよく口にする「目標を持ち、計画を立て、努力を重ねて、結果を出す」という一連のつながりが、存在します。
- 生徒の皆さん、私も中学生の頃はテスト勉強の仕方を何回も失敗しました。自分で思うような点数が取れないからといって、「俺は頭が悪いのだ」と思う事はありません。そこには、勉強の仕方のまずさ、日頃の勉強の取り組み方の甘さ、授業中の集中力の不足など、本来の自分の能力とは別の要因が関係していると思ってください。
- したがって、テストが返された時には、ただ点数を見て一喜一憂するのではなく、その裏にある、このような勉強をしてきたら良かった、いやそれほどではなかったという振り返りの仕方が、今後に生きるものだと考えます。女子のワールドカップカナダ大会で、日本は体格に勝る強豪国を1点差で見事破ってきました。そこには、佐々木監督を中心に、勝つための細かな戦術がしっかりと立てられているはずです。そして、選手一人一人が、与えられた役割を着実に実行したから決勝まで来たのだと思います。

除染作業始まる ### ~ 校地内の草木が生えた部分の除染です ~

- 本校では今、除染工事が始まっています。生徒達が普段活動しない場所を中心に行うものです。期間は、夏休みの終わり頃までです。業者は「村越建設」さんです。村越さんの計らいで、過日親子奉仕作業で出た草や木の枝等も始末してもらうことになりました。除染で生じた土や草は、袋に詰めて、校舎北側の林の中に穴を掘り、埋めることになりました。

《 校長のつぶやき 》・・・「校内美化コンクールに想う」・・・

- 6月18日、19日、22日の3日間を使って、本校では生徒の生徒による教室の美化を中心とした美化コンクールが開催されました。清掃が終わってから、整美委員会がいくつかの項目に従って点検し、点数を付けて競うものです。このコンクールは「生徒が心と力を合わせて行えば、必ず良い結果を得ることができる」という点で、努力した甲斐が目に見えるものです。
- 結果は、1位3年3組(58点)、2位2年1組(53点)、3位3年2組(52点)、その次が51点、47点・・・となりました。できれば、学期に1回は実施してほしいものです。なぜなら、どの学級も2回目、3回目と回を重ねるごとに点数が上がっていくのが望ましいからです。
- 生徒達がやがて成長して親元を離れ、一人暮らしをするようになった時にこの経験は生きると思います。また、自分の部屋や家の掃除にこの経験を生かすことができれば、さらに良い結果となります。人間は、本来人のため社会のために役立つことが、最も輝く時だと考えるからです。

